道徳教育研究

研究テーマ
　子ども１人１人の成長を「認め励ます」評価の工夫

１　はじめに

「下野市学校教育計画」２「豊かな心」を育む教育の推進　(1)道徳教育の充実より

努　力　目　標	努　　力　　点
①　教育活動全体を通じて行う道徳教育の充実を図る	ア　校長の方針の下、道徳教育推進教師を中心に、道徳教育の重点目標を明確にし、内容項目の重点化を図った指導に努める。 イ　別葉を活用し、各教科等の目標と道徳教育との関連を図った指導に努める。 ウ　ファミリエ下野市民運動を推進し、当たり前のことを当たり前に行うことを通して規範意識や倫理観を育む。 エ　道徳教育の取組を、学校だよりやＨＰ等を通して発信し、家庭や地域の理解・協力を得るよう努める。
②　道徳教育の要としての道徳科の授業の充実を図る。	ア　授業時数を確保し、他の教育活動との関連を明確にした上で、９年間を見通した計画的、発展的な指導に努める。 イ　本時のねらいを明確にし、道徳的価値の自覚を深めるための手立てを講じて授業の質の向上 に努める。

　道徳教育研究会では、平成２８年度より、教育活動全体を通じた道徳教育の充実、地域との連携、系統性を踏まえた指導の充実、新たな視点からの授業改善等をテーマに研究を進めてきた。今年度は、昨年度の小学校に引き続き中学校においても道徳が教科化されたことに伴い、「子ども１人１人の成長を『認め励ます』評価の工夫」について研究を進めることにした。また、市道徳教育研修会では、地域教材を用いた授業研究会を実施した。

２　市道徳教育研修会の実践から（地域教材の活用）

古山小学校では、今年度「道徳教育応援チーム派遣事業」を受け、研究内容の１つとして地域教材の活用に取り組んだ。６年生においては、「もう一つのワールドカップを知って」（『ふるさと　とちぎの心』栃木県道徳教育郷土資料集　栃木県教育委員会）を教材に用いた授業を市道徳教育研修会にて実践した。

(1)　教材について

本教材は、さくら市の鬼怒川運動公園で行われた知的障害者サッカー日本代表の強化合宿での練習試合を素材としている。

主人公の翼は、試合観戦に誘われたが、障害者のチームでは高いレベルのプレーは期待できず、地元の強豪高校生チームとは勝負にならないと思っていた。しかし、両チームが真剣に戦う姿を見て、友人の武に対して差別したり、排除したりする気持ちをもっていたことに気付く。

教材中に出てくるサッカーチームが県内に実在するチームであること、主人公が児童と同年代であることから、主人公に自分を重ね合わせてねらいとする価値について考えられる教材である。

(2)　授業改善のための工夫

- 自作の紙芝居を用いて教材提示をすることで、話の内容を理解し、教材の中に入り込みやすいようにした。
- 話中に登場するサッカーチームが実在することを伝え、児童にとって身近な問題として捉えて考えられるようにする。
- 主人公だけでなく関わる人々の立場から考えたり、誰にでも差別や偏見で物事を捉えがちである「人間の弱さ」があることに気付いたりすることで、ねらいとする価値について多面的・多角的に考えられるようにした。
- ねらいとする価値について、導入では自分自身について、展開では相手の立場になって、振り返りでは社会全体との関わりから考えることで、児童自身が考えの深まりを感じられるようにした。

(3)　実践授業　　（小学校第６学年）

①　主題名

差別や偏見のない社会へ

C-(13)公正，公平，社会正義

②　教材名

「もう一つのワールドカップを知って」

出典『ふるさと　とちぎの心』（栃木県道徳教育郷土資料集　栃木県教育委員会）

③　ねらい

誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正・公平に接していこうとする態度を養う。

④　展開略案

過程	学　習　活　動　と　主　な　発　問
導入	1　差別や偏見という言葉について話し合う。 ○　これまで差別をしたり、偏見で考えたりしたことはありませんか。
展開	2　「もう一つのワールドカップを知って」を読んで話し合う。 ○　それぞれの立場で考えてみましょう。気になった行動はありませんか。それはどのような心から起きたのでしょう。 ○　気になった翼の行動はありますか。それはどのような心から起きたのでしょう。 ◎　翼の武に対する気持ちはどのように変化したでしょうか。それはなぜでしょう。
終末	3　これからの生き方について考える。 ○　学習を振り返り、「差別」や「偏見」とどう向き合っていくか考えましょう。

⑤　板書

(4)　成果と課題

◎ 紙芝居は、理解の手立てだけでなく登場人物の心情を考える際に場面絵にも活用することができ、大変有効であった。

◎ 紙芝居に表情を描き入れないことで児童の思考の幅を広げ、自分の経験と照らし合わせながら「人間のもつ弱さ」について気付かせることができた。

◎　登場人物のそれぞれの立場から考えたことで、児童がねらいとする価値について多面的・多角的に捉え、自分なりの考えをもって友達に伝えることができた。

△　地域共在の活用について、校内で共通理解を図り、年間指導計画に位置付け計画的に進めていく必要がある。

△　地域教材について、中心となる価値が「郷土愛」とは限らないため、教材のもつよさをどう生かしていくか、十分検討する必要がある。

３　評価の工夫改善

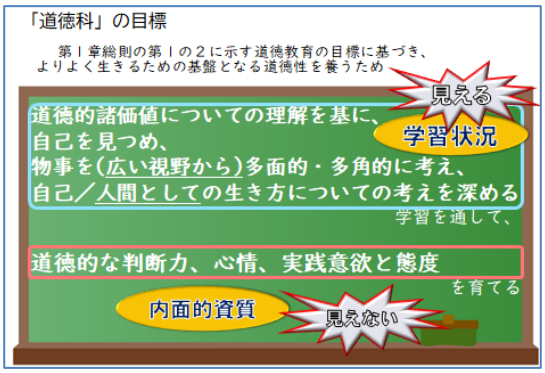
道徳科の評価の工夫改善について研究を進めるにあたり、道徳科の評価の在り方について以下のように共通理解を図った。その上で、発達段階に応じた指導方法や評価方法の工夫、校内研修を活用した組織的な取組について研究を進めてきた。

【道徳科の評価の在り方について】参考『学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』文部科学省
「道徳科に求められる評価」　独立行政法人教職員機構

○　道徳科で評価すること

・　児童生徒の学習状況

・　道徳性に係る成長の様子



○　道徳科における児童生徒の評価の視点

道徳的諸価値の理解を基に

道徳的諸価値の理解とは･･･

・　道徳的価値は、人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること。

・　道徳的価値が大切であると分かっていても、なかなか実現することができない人間の弱さがあることを理解すること。

・　道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の考え方、感じ方は多様であるということを理解すること。

児童生徒が一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか。※評価の視点①

多面的・多角的な見方とは･･･

・　道徳的価値を一面的に捉えるのではなく、他の道徳的価値と関連付けるなど様々な視点から捉えて考えようとしている。

・　自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている。

・　複数の道徳的価値が矛盾したり対立したりする場面において取り得る行動を、様々な視点から考えようとしている。

児童生徒が道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。※評価の視点②

自分自身との関わりの中で深めるとは･･･

・　読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている。

・　これまでの経験やその時の感じ方、考え方と照らし合わせながら、現在の自分を振り返ろうとしている。

・　道徳的に価値を実現することの難しさを自分のこととして捉えて考えようとしている。

(1)　小学校低学年における実践事例　発問の工夫改善を図ることで適切な評価につなげる

授業における発問は、児童が自分との関わりで道徳的価値を理解したり、自己を見つめたり、物事を多面的・多角的に考えたりするための思考や話合いを深めるために重要である。本実践では、適切な評価のための工夫改善の１つとして発問に重点を置いた。また校内道徳教育重点目標を基にして指導の重点を「A-1 善悪の判断、自律、自由と責任」、「B-9 礼儀」、「C-12 規則の尊重」に絞り実践を進めてきた。

①　適切な評価につなげるための工夫改善

・　道徳科の学習状況を適切に見取ることができるよう、発問と評価の視点の一体化を図る。
・　発問に対する自分の考えを書く活動を位置付け、ワークシートを蓄積していくことで、道徳性に係る成長の様子を確実に見取ることができるようにする。

【評価の視点】
①　一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか。（資料・プリント●印）
②　道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。（資料・プリント■印）

②　実践内容

○　重点指導内容を核とした授業改善

実践事例①　教材名：あかるいあいさつ　B-(9)　礼儀

評価の視点	授業改善のポイント
①一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか	「あいさつすると・・」の後に続く言葉を考えさせ、挨拶のよさを多面的・多角的に捉えられるようにする。●
②道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか	イラストをもとに自己の生活と教材を結びつけて考えさせる。声の大きさや表情など具体的な行動を比較しながら考えられるようにする。■

実践事例②　教材名：ぽっかぽか　B-(9)　礼儀

評価の視点	授業改善のポイント
①一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか	友達といろいろな挨拶を交わす体験を通して、挨拶することのよさや、一人一人の感じ方に違いがあることに気付かせる。●
②道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか	よりよい人間関係を築くためにどのような挨拶をしたらよいか考えることで、これまでの挨拶を振り返り、心を込めて挨拶することのよさについて気付くことができるようにする。■

実践事例③　教材名：だれもみていない　A-(1)　善悪の判断，自律，自由と責任

評価の視点	授業改善のポイント
①一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか	壊してしまったことを、正直に言うという選択肢だけではなく、様々な判断があることに気付くことができるようにする。●
②道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか	誤って壊してしまった時に、ごまかすのか正しい行動をするのか葛藤する主人公の気持ちに共感し、自分のこととして考えられるようにする。■

実践事例④　教材名：うんどうぐつ　A-(1)　善悪の判断，自律，自由と責任

評価の視点	授業改善のポイント
①一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか	「ぼく」の考えは「してはいけないこと」と「怖くて言えなかった」の2通りではない。「かわいそう」「どうしよう」「こまった」など、他の考えがないか、ペアや全体での話合いを通して多面的・多角的に考えられるようにする。●
②道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか	主人公「ぼく」に自分を重ねて振り返らせる。怖いから言えないという気持ちも考えさせ、人としての弱さにも気付くことができるようにする。■

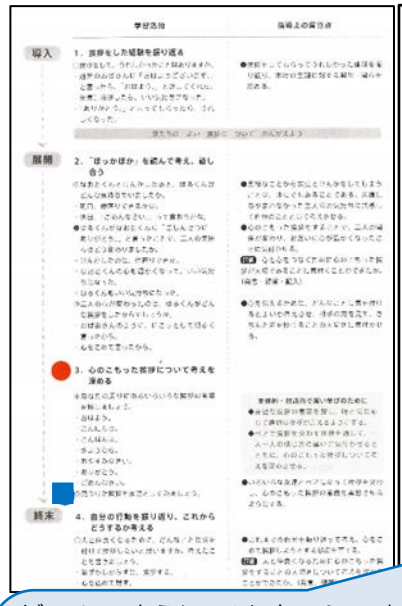
実践事例⑤　教材名：おかしくないかな　C-(12)　規則の尊重

評　価　の　視　点	授　業　改　善　の　ポ　イ　ン　ト
①一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか	問題となる行動やその行動につながる弱い心、それぞれの立場から考えることで、みんなが笑顔で過ごすことができる使い方には共通点があることに気付くことができるようにする。●
②道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか	「これまで周りの人や次に使う人の気持ちを考えてみんなのものを使っていたか。」と問うことで、これまでの経験と照らし合わせて考えることができるようにする。■

実践事例⑥　教材名：みっちゃんのやくそく　C-(12)　規則の尊重

評　価　の　視　点	授　業　改　善　の　ポ　イ　ン　ト
①一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか	課題の原因となる行動を引き起こす弱い心と価値実現の大切さとの葛藤（心の綱引き）について話し合うことで、心の弱さを乗り越えようとする気持ちについて多角的・多面的に捉えて考えることができるようにする。●
②道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか	「主人公に言ってあげたいこと」を考えることで、道徳的価値を自分との関わりの中で深められるようにする。約束を守ることについて具体的な場面を想起することで、今までの自分を振り返ることができるようにする。■

実践事例⑥における指導計画　ワークシート　補助簿



●まよっている　みっちゃんは　どんなことを　かんがえているのでしょう。

■いままでに　やくそくが　まもれたことを　おもいだしてみよう。

・ゲームのまえに べんきょうのやくそくを まもれた。
・おかあさんにほめられたから うれしかった。
・ならいごとのしゅくだいができた。きもちよかった。
・そのとき やくそくしていた じかんに ちゃんと いえに かえることができて うれしかった。
・ゲームの じかんを まもったとき、じかんをまもれたね といわれて うれしかった。

・いまだけ やっちゃおうかな。
・さわったら おかあさんに おこられるかなあ。
・おかあさんを よんでこよう。
・おかあさんに じかんを きめてもらって やろうかな。
・やめておこう。

③　成果と課題

◎　発問と評価の場面を一体化することで、ねらいに迫る発問や児童の思考を深める補助発問、児童の学習状況の意図的な記録をすることができた。

◎　事前に評価の場面を決めておくことで計画的な指導や評価につなげることができた。

△　学習状況をより確実に見取るためには、担任１人で行う授業だけではなく、複数の教員による授業を実施することも計画していきたい。重点目標に該当する教材でＴ・Ｔでの授業を行うなど、校内全体で指導の重点化を図っていきたい。

(2)　小学校高学年における実践事例　指導計画を作成し評価場面や評価方法を適切に位置付ける

児童の学習状況を適切に把握し評価するためには、事前に指導計画を作成しどの場面でどのように評価をするか明確にすることが重要である。本実践では、適切な評価につなげるための工夫として、指導計画や評価方法、内容項目の関連性に着目した見取りの工夫に重点を置いた。

①　適切な評価につなげるための工夫改善

・　事前に指導計画を作成し評価場面や評価方法を確実に位置付ける。
・　年間を通して３つの評価方法（毎時の観察、道徳ノート、自己評価）を計画的に位置付け記録を蓄積することで、学習状況や道徳性に係る成長の様子を適切に把握することができるようにする。
・　中心となる内容項目と関連する内容項目に関わる記述に目を向けることで、道徳的価値について、児童が一面的な見方から多面的・多角的な見方に発展させていることに気付き、評価に生かせるようにする。

②　実践内容

実践事例　教材名：ひとみと厚　B-(10)　友情，信頼

○　指導計画

学習活動 ○主な発問	指導上の留意点　　☆評価の考え方
導入 ①友達だから□□ ○　□□に入る言葉で思い浮かぶものはありますか。	・授業前の「友達」についての自分の考えを確認することで、自身の変容を実感できるようにする。 **☆最初に自分の考えを書かせ、授業終了時の評価の一助とする。**
①教材を読み，感想を交流する。 ・感想を書き、友達と交流する。 ・グループで共有する。	・思い浮かばない場合は，友達の感想を参考にしてもよいことを伝える。 ・自分の考えを明確にすることで、考えを基にねらいとする価値について話し合ったり書いたりすることができるようにする。 ・グループで交流の場を設けることで、感想を共有できるようにする。 **☆友達の考えには㊋マークを記入させることで，多面的・多角的な見方への変容を見取る一助とする。**
②話合いを通して，ねらいとする価値について多面的･多角的に考える。 ・グループで話し合う。 ・全体で共有する。 ○冷やかしている友達と一緒に練習をしている友達との違いは何ですか。	・グループでの話合いを通して、友達との関係について多面的・多角的に考えられるようにする。 ・ねらいに迫る発言に対して問い返し、考えさせることで、ねらいとする価値について多面的・多角的に考えられるようにする。 **☆発言を聞いたり、グループで話し合ったりすることで，多面的・多角的な見方につながる発言等を補助簿に記録する** **☆自分自身との関わりの中で考えを深めている様子や発言等を補助簿に記録する。** ・実態に応じて、無理に自分との関わりの中での発言をしなくてもよい雰囲気を作っておく。
③学んだことを交流する。	・１時間の授業で学び、深めたことを全体で共有する。 **☆授業を通して各自が学んだことについて振り返りをさせることで、考え方の変容や自分との関わりの中で深めた内容について見取る一助とする。**

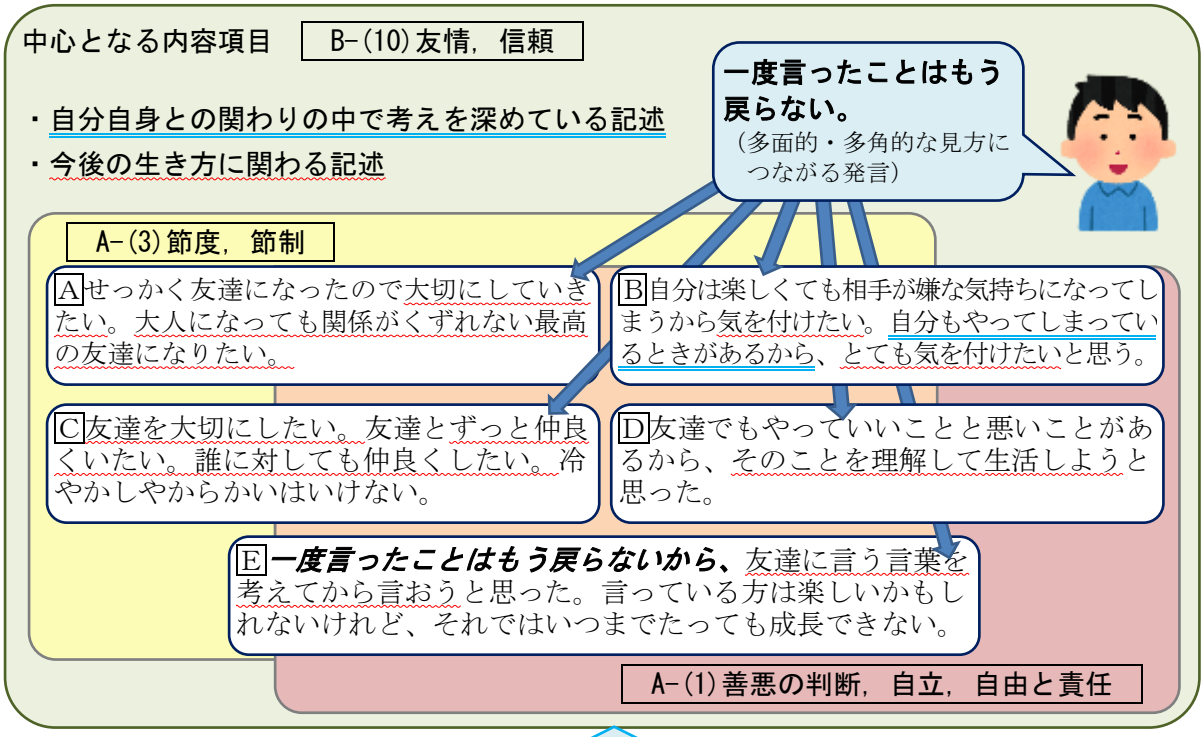
○　評価方法の工夫

実践にあたり、３つの評価方法（毎時の観察、道徳ノート、自己評価）を計画的に位置付け記録を蓄積してきた。「道徳ノート」については、単に記録を蓄積するだけでなく、前学年の学びの様子が次の学年でも生かすことができるよう学校全体で共通理解を図ってきた。また、毎時の観察については、指導計画に基づいた見取りを名簿や座席表等に蓄積してきた。

加えて、一定期間ごとに児童自身による自己評価を実施した。これは、出会った教材や授業を通して学んだことを振り返り、自分自身がどのように道徳の授業に取り組んできたかを道徳ノートに自由に記述したものである。このような自己評価も評価の参考とすることで、児童の思いに寄り添った評価につなげられるようにした。

○　内容項目の関連性に着目した見取りの工夫

・　授業の振り返りの記述より



「善悪の判断」や「節度、節制」の側面からも「友情、信頼」について考えを深めている。
→　**一面的な見方から多面的・多角的な見方への変容**

振り返りの記述では、「一度言ったことはもう戻らない」という児童の発言を受けた内容が多く見られた。また、友情・信頼関係を築いていくためには、善悪を正しく判断し節度をもって行動することも大切と捉えている児童も多く、一面的な見方から多面的・多角的な見方への変容を捉えることができた。

③　成果と課題

◎　事前に指導計画を作成することで、教師自身の指導と評価に対する考えを明確になり、適切な評価場面や評価方法を見出し、位置付けることができた。

◎　内容項目の関連性に注目することで、多面的・多角的な見方へつながる記述や発言に着目することができた。

△　教科になったことで、評価方法に重点が置かれがちであるが、評価することが目的ではなくねらいの達成に向けて授業改善を進めていく必要がある。

(3)　中学校での実践事例　校内組織を生かして授業改善に取り組む

道徳の教科化により、道徳の授業改善への関心が高まっている。一方で、多くの教員が悩んでいるのが現状である。本実践では、適切な評価につなげるための工夫として、校内組織を生かした授業改善に重点を置いた。校内研修やS&Uコラボ事業において授業研究会などを行い、道徳の授業や評価についての共通理解を図ってきた。また、各々の教員が道徳の授業の充実を図ることを目指して、授業の工夫・改善を行ってきた。

①　適切な評価につなげるための工夫改善

- ローテーション授業（教師が交代で学年の学級を回って行う授業）を実施し、生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子をより多面的・多角的に把握できるようにする。
- 学習形態を工夫し生徒が本音で話し合える場を設けることで、一人一人の成長を積極的に受け止め、「認め励ます評価」につなげられるようにする。
- 校内研修を通して、授業改善の方向性や評価方法についての共通理解を図る。

②　実践内容

○　ローテーション道徳

担任１人による評価ではなく、複数の授業者による多様な目で生徒の変容やよさを捉えていけるよう、学年でローテーションを組み、道徳科の授業を行った。ローテーション授業では、担任以外の教員も授業者として関わるため、より多くの教員の目で生徒の変容を見取ることができた。また、担任の空き時間にローテーション授業を設定することで、担任する学級の授業を参観することができるため、生徒の学習状況を俯瞰的に確認することができ、学習状況を記録することができた。評価の面からだけでなく、教師の専門分野や得意分野を生かして教材研究に取り組んだり、繰り返し同じ教材で授業を行ったりすることにより指導力の向上につながるという指導面での利点も見られた。

学年主任によるローテーション授業

○　学習形態の工夫（「トリオ学習」の導入）

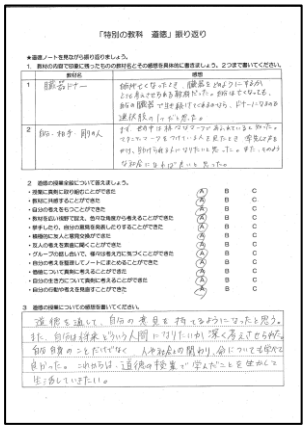
中学校では、自分の考えを話すことに躊躇する生徒が増えてくる傾向がある。そのような実態を踏まえ、評価の対象はノートやワークシートへの記入状況が中心となる。しかし、生徒一人一人が自身の考えを深めるためには、他者との対話が不可欠である。すべての生徒に発言の機会を確保し、より本音で話し合うことができるよう、宇都宮大学の和井内准教授が考案した「トリオ学習」を導入した。「トリオ学習」では、３人のグループでの話合いを中心に授業を進めていく。話し合った内容をグループのメンバーが交代で全体に伝えるため、発言の機会が全員に保障される。グループでの対話を通して、自分の意見をもつことができた生徒も多くいた。少人数の中だからこそ生徒の本音を自由に話すことができたり、当事者意識をもって考えたりすることができた。

トリオ学習の様子

○　振り返りの実施

毎時間の授業だけでなく、学期ごとの振り返りを行った。振り返りシートを作成し、関心をもった内容項目に対する自由記述や道徳の授業への取組に対する自己評価を記入させた。自己評価を取り入れることで、生徒自身が成長を実感できるようにした。中には、道徳ノートには書かれていない視点での感想や授業を通して自分に変容が見られたことを記入する生徒も見られた。

このような振り返りを蓄積していくことで、道徳性に係る成長の様子をより適切に見取ることができるようにした。


「特別の教科　道徳」振り返り

■道徳ノートを見ながら振り返りをしよう。

1　教材の内容で印象に残ったものの教材名とその感想を具体的に書きましょう。2つまで書いてください。

	教材名	感想
1	勝ち負けを超えて	自分がくじけそうになったとき、勝負をどのように考えるか、とても考えさせられる教材だった。勝ちは大切だけれども、勝ちを勝負で決めるのではなく、ルールやマナーを守って試合をすることが大切だと思った。
2	自分・相手・周りの人	まず、どのマナーは絶対にマナーであるのかを知った。そしてルールやマナーをつけていくことを見たとき、常気ひとつの中に、自分が何者なのかマリアにとって思った。また、これから学習に生かしたいと思った。

2　道徳の授業全般について答えましょう。

・道徳に真剣に取り組むことができた	A	B	C
・教材に興味をもつことができた	A	B	C
・自分の考えをもつことができた	A	B	C
・教材を広い視野で捉え、色々な角度から考えることができた	A	B	C
・挙手したり、自分の意見を発表したりすることができた	A	B	C
・積極的に友人と意見交換ができた	A	B	C
・友人の考えを想像に膨くことができた	A	B	C
・グループの話し合いで、様々な考え方に気づくことができた	A	B	C
・自分の考えを整理してノートにまとめることができた	A	B	C
・教材について真剣に考えることができた	A	B	C
・自分の生き方について真剣に考えることができた	A	B	C
・自分の変わる考えを見直すことができた	A	B	C

3　道徳の授業についての感想を書いてください。

道徳を通して、自分の意見を持てるようになったと思う。また、自分は将来どういう人間になりたいか、深く考えさせられた。自分自身のことだけでなく、人や社会との関わり、命についても学べて自分になった。これからは、道徳の授業で学んだことを使かして生き方をしていきたい。

振り返りシートの例

○　通知表に評価を記述する上での確認事項と文例集の作成

【評価を記述する上での確認事項】
(1)　道徳の学習全般における学習状況
(2)　ノートや振り返りの記述、発言の内容を踏まえた学習状況
(3)　評価の視点から見た学習状況
・一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか。…評価の視点①
・道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。…評価の視点②
・自己の生き方について考えを深めることができたか。

評価の視点	評価文の参考例
①一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか。	問題意識をもって、友人と真剣に話し合う姿が見られました。特に「規則の尊重」に関連する授業では、「きまりは守るべきだが、様々な立場を考えると迷うこともある。」と記述するなど、人間のもつ弱さにも目を向けて考えていました。
②道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。	「生きる喜び」に関連した授業では、登場人物を自分に重ね、「困難にぶつかっても努力していくことが大切である。」と記述するなど、自分の弱さに向き合い努力するスポーツ選手の生き方に共感しながらテーマについて考えました。

③　成果と課題

◎　学習状況を適切に評価できるよう研究を進める中で、教師自身が道徳の授業に対する問題意識をもって授業改善を進めることができた。

◎　ローテーション授業やトリオ学習を取り入れることによって、生徒の学習状況を的確に把握することができた。

△　教科書に付属する道徳ノートの活用は、教師にとっては授業の流れが分かりやすいという利点もあるが、発問に対する考えを一言書くだけに留まっていることも多い。ノートの活用方法を工夫したり、ワークシートを自作したりするなど、生徒の意識の変容を見取ることができるようにしていく必要がある。

(4)　校内研修を活用した実践事例　校内研修を核として全教職員で技量を磨き合う

道徳の教科化により、生徒のどのような様子をどのように評価すればよいのかが課題となっている。教職員１人１人が自信をもって授業改善に取り組み、適切な評価ができるよう、校内研修を核として学校全体で共通理解を図り、授業の工夫・改善を進めてきた。

①　適切な評価につなげるための工夫改善

・　校内研修を通して道徳科における評価の意義について学び、評価場面や方法について共通理解を図ることで、すべての教師が自信をもって適切に評価できるようにする。
・　研究授業において生徒の学習状況を記録し、評価文を作成する研修を通して、学習状況を適切に見取り、生徒の成長を積極的に受け止め、「認め励ます評価」につなげられるよう技量を磨く。

②　実践内容

○　評価についての共通理解（道徳教育推進教師による校内研修）

【校内での確認事項】

○　道徳科の評価とは

道徳科の目標に示された「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める」という学習自体を評価する。

○　２つの着眼点

・　一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか。…評価の視点①
・　道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。…評価の視点②

○「評価」における留意点

・　いかに成長したかを積極的に受け止め，認め励ます評価であること。
・　子どもが自らの成長を実感し，意欲的に取り組むための肯定的な評価であること。
・　大くくりなまとまりをふまえた評価であること。

○　授業研究会を活用した評価の実践

研究授業において、全参加者が担当する生徒のつぶやきや発言などを中心に学習状況を記録し、授業後の研修で評価を作成する場を設けた。教職員全員が適切に生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取ることができるよう、作成した評価文を共有し、学習状況を適切に見取っているか、生徒の成長を積極的に受け止め「認め励ます評価」となっているかを検討し、よりよい評価の在り方について考えた。

指導略案　　（中学校第１学年）

・　主題名

よりよい社会のために　C-(12)社会参画，公共の精神

・　教材名

「あったほうがいい？」　出典『あすを生きる』（日本文教出版）

・　ねらい

身近なゴミ問題を考え話し合うことを通して、社会に尽くす公共の精神について深く考え、よりよい社会の実現に努めようとする態度を育てる。

・　評価

身近にあっても解決が一筋縄でない現代的な問題に対し、よりよい社会の実現のために、自分なりに具体的な解決をめざす意欲が発言や記述に見られたか。

・　展開略案

過程	学　習　活　動　と　主　な　発　問
導入	1　主人公・智子の経験やゴミ問題について考える。 ○　街中などでガムを踏んだ事はあるか？資料のような街で散らかったゴミを見て、どのような気持ちになったか。
展開	2　教材「あったほうがいい？」を読み、考える。 ○　この教材では何が問題か考えよう。誰もが街をきれいにしたいと思っているはずなのに、ゴミ問題が起こるのはなぜか。 ○　ゴミ箱を設置したほうがよいか、しないほうがよいか、考えてみよう。 ◎　ゴミ問題を解決するためにどうしたらよいか、どんな考え方や行動が大切か、話し合おう。　　→ワークシートへの記入
終末	3　話し合ったことをもとに、自分の考えをまとめる。 ○　教室をきれいにするためにどうすればよいか、どんな心構えが大切か、まとめてみよう。→ワークシートへの記入

・　評価例

評価
　身近にあっても解決が一筋縄でない現代的な問題に対し、よりよい社会の実現のために、自分なりに具体的な解決をめざす意欲が発言や記述に見られたか。･･･評価の視点②

（「あったほうがいい？」の学習を通して、）

・　社会をよりよくするためには、個人の意識を高めることが大切であると考え、一人一人に呼び掛けたい内容を具体的に考え、ノートにまとめていました。
・　身近なごみ問題の解決に向けたグループでの話合いでは、友達の意見を尊重しながらも自分の意見を大切にし、一人一人の意識の変化の必要性に気付きました。
・　友達と意見交換をする中で、一人一人が努力することがよりよい社会の実現につながることに気付き、自分なりに具体的な方法について考えたことを発表しました。
・　ごみ問題の解決について、友達の意見を受けて、自分でもできることを考え、ノートにまとめる中で一人一人が規範意識をもつことの大切さに気付きました。
・　社会をよりよくするために、個人の意識を高めることが大切であることに気付き、一人一人に呼び掛けていきたいことを具体的に考え、友達に伝えていました。
・　ごみ問題を解決するための話合いを通して、自分の考えと違った意見があることに気付きました。様々な意見を受け入れる中で、よりよい社会の実現のために、多くの人の意識を変えることが大切だという思いをもちました。
・　身近なごみ問題を解決するために自分にもできることがあることに気付き、具体的な方法について考えていました。級友との話合いを通して、まわりの環境に目を向けることの大切さに気付きました。

③　成果と課題

◎　学校全体で共通理解を図り研究を進めたことで、教職員１人１人が自信をもって道徳科の授業改善に臨むことができた。

◎　授業研究会を活用した評価の実践では、生徒のどのような姿に着目し、そこから何を見取ることができるのか共有することができた。

△　評価の対象が発言やつぶやき、ノートへの記述内容に限られているため、表出しにくい部分にも目を向け、生徒の成長を積極的に受け止められるようにしていきたい。

４　おわりに

研究を通して、形式的に評価をするのではなく、１年間の授業を通して子どもたち１人１人のよさや成長の様子に積極的に目を向けることが重要であることを再確認することができた。また、子どもたちの学習状況を評価する中で自身の授業を振り返り、授業改善につなげることができた。特に、学習状況の見取りについては、子どもたちのどのような姿に着目すればよいか具体的にイメージしながら授業に臨むことができた。一方で、道徳性に係る成長の様子の見取ることの難しさも挙げられた。今後も、授業の質的向上を図り、適切な評価につなげられるよう研究を重ねていきたい。